

平成30年度

事業報告書

社会福祉法人 山根会



目 次

| | | |
|------------------------------|-----------|-----|
| はじめに | ・ ・ ・ ・ ・ | 3頁 |
| 事業概要 | ・ ・ ・ ・ ・ | 4頁 |
| 法人理事会・評議員会開催記録 | ・ ・ ・ ・ ・ | 5頁 |
| ○事業報告 | | |
| 指定介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）/短期入所施設 | ・ ・ ・ ・ ・ | 6頁 |
| 各委員会開催報告 | | |
| ・ 入退所検討委員会 | ・ ・ ・ ・ ・ | 7頁 |
| ・ 褥瘡防止委員会 | ・ ・ ・ ・ ・ | 8頁 |
| ・ 事故防止委員会 | ・ ・ ・ ・ ・ | 9頁 |
| ・ 感染症対策委員会 | ・ ・ ・ ・ ・ | 15頁 |
| ・ 排泄委員会 | ・ ・ ・ ・ ・ | 16頁 |
| ・ 食事委員会 | ・ ・ ・ ・ ・ | 17頁 |
| ・ 行事委員会 | ・ ・ ・ ・ ・ | 25頁 |
| ・ レクリエーション検討委員会 | ・ ・ ・ ・ ・ | 26頁 |
| ・ 防災委員会 | | |
| ・ 苦情解決委員会 | | |
| ・ 部署会議 | ・ ・ ・ ・ ・ | 28頁 |
| ・ ボランティア | ・ ・ ・ ・ ・ | 29頁 |
| ・ 広報誌 | | |
| ・ 家族会 | ・ ・ ・ ・ ・ | 30頁 |
| 各事業稼働率 | ・ ・ ・ ・ ・ | 31頁 |
| 住宅型有料老人ホーム（アモーレ） | ・ ・ ・ ・ ・ | 32頁 |

はじめに

個人を尊重した接遇

自立支援を念頭に置いて、ご利用者様に敬意をもって接遇を行うべく、「挨拶」「丁寧な言葉遣い」を心掛けるよう、施設内研修（マナー研修）を通して、各フロアのリーダーや職員に対して指導し、意識の啓発に努めた。

職員育成

業務遂行の上で年2回は人事考課を図り、職務の分担や人事面に重点を置き、職員のスキルや職場の人間関係を考慮して職員配置を心掛けた。問題を解決するに至っては、第一に、ご利用者様との関わりを大切に職員の適材適所を重要とし、介護現場の安心安全を図ることに努めた。

地域との連携

地域との連携は、一般のボランティア活動による尽力や、定期的に来所される旭区の相談員との関わりによる客観的見地に立った意見を、介護現場に反映する努力を踏った。
学校関係では、中学生による介護現場での介護業務への参加や、恒例となっている隼人高校の生徒による水の郷夏祭り「みずさとフェスタ」で、太鼓や演舞の披露といった参加協力があつた。

経営の安定化

各事業の稼働率としては、特養は平均**95.2%**、ショートステイは**97.6%**、有料老人ホームは**79.6%**と、比較的安定した数字となった。
居宅介護支援は、職員1名体制から10月より、2名体制で稼働し、昨年度より平均受入人数が増え、平成29年度は**平均56名**となった。

訪問介護事業は、同一敷地内でのサービスが主流となり、減算計上で推移している。外部へのサービスについては、数件の展開をしてきたが職員配置が難しく、継続的な関わりや更なる新規受入に対応ができなかった。
このような体制の不備を改善し、人材育成を強化する事により、来年度に向けて他事業者との連携を密に図っていくことを目標とする。

【介護保険対象事業】

(目的) この社会福祉法人(以下「法人」という。)は、多様な福祉サービスがその利用者の意向を尊重して、総合的に提供されるよう創意工夫することにより、利用者が個人の尊厳を保持しつつ、安心して自立した生活を地域社会において営むことができるよう支援することを目的とする。

1 指定介護老人福祉施設 (特別養護老人ホーム水の郷) 定員100名 (第1種社会福祉事業)

(目的) 常時介護を必要とする利用者に対して、食事・入浴・レクリエーション・機能訓練等のサービスを提供する施設

2 短期入所・予防短期入所 (ショートステイ水の郷) 定員10名 (第2種社会福祉事業)

(目的) 在宅での介護が困難になった要介護状態の高齢者様に一時的に入所していただき、日常生活の援助を行うと共に、ご家族に休養の時間をとっていただくことを目的とする。

3 訪問介護 (訪問介護ステーションドルチェ) (第2種社会福祉事業)

横浜市旭区・緑区中心に訪問

(目的) 事業所の介護資格保持者(訪問介護員)が、要介護認定を受けた方に対して、介護支援専門員(ケアマネージャー)が、作成したケアプランに基づき、必要な生活援助・身体介護を行う。

4 居宅介護支援センター (パラダイス水の郷) (公益事業)

横浜市旭区・緑区・瀬谷区を中心に訪問

(目的) 介護支援専門員(ケアマネージャー)が、居宅サービス計画(ケアプラン)を作成し、サービス事業者との連絡・調整・日々の相談などに対応する事を目的とする。

【介護保険対象外事業】

1 住宅型有料老人ホーム (アモーレ水の郷) 定員20名(個室20室) (公益事業)

(目的) 自立から要支援1~2・要介護1~5の方を対象に入居可能とする。

介護が必要な方は、訪問介護及び訪問看護のサービス利用を受けることができる。

施設では、毎日の食事・入浴・レクリエーション・生活リハビリ・外出時送迎等のサービスを提供する事を目的とする。

【共通事業】

1 給食

施設ご利用者、職員などに栄養のバランスや季節に合わせた食事を提供する。

2 総務

会計、人事、施設管理、消防、防災、送迎などを行う。

3 委員会

入退所検討委員会、褥瘡防止委員会、事故防止委員会、感染症対策委員会、排泄委員会、食事検討委員会、行事委員会、防災委員会、広報委員会、安全衛生委員会、その他(利用者処遇検討委員会等必要時に開催)

4 家族会

利用者様の生活の向上を図る活動に協力を求め、会員相互の理解と親睦を深めることを目的とする。

法人理事会・評議員会開催記録

理事会

| | |
|-----|--------------------|
| 第1回 | 開催日 平成29年3月5日（日） |
| 第2回 | 開催日 平成29年5月21日（日） |
| 第3回 | 開催日 平成29年5月21日（日） |
| 第4回 | 文書決裁 |
| 第5回 | 開催日 平成29年12月27日（日） |
| 第6回 | 開催日 平成30年1月28日（日） |
| 第7回 | 文書決裁 |
| 第8回 | 開催日 平成30年3月18日（日） |

評議員会

| | |
|-----|--------------------|
| 第1回 | 開催日 平成29年6月4日（日） |
| 第2回 | 開催日 平成29年12月28日（日） |

平成29年度 事業報告

効率的運営を行うため、運営目標を定め、事業方針に基づいた計画を推進した。

| 指定介護老人福祉施設・短期入所施設 | |
|---|--|
| 目標 | 報告 |
| <p>1 デイサービス、廃止に伴う減収の抑制に努める。</p> <p>2 福祉第3者評価を導入</p> <p>3 予防介護給付及び地域支援事業 サービスの質の向上を鑑み、職員研修と個別ケア実践の充実を、押し進めていく。</p> | <p>1 デイサービスの廃止に伴う減収に努める。</p> <p>職員jの退職などが会ったが、デイサービスの職員を配置し直すことで対処した。</p> <p>2 第3者評価を導入するまでには、職員の負担を考え、今年度は、見送った。</p> <p>3 職員研修など、認知症ユニットリーダー研修、個別ケア計画を推進した。</p> |
| 計画 | 報告 |
| <p>1 施設作り</p> <p>ご利用者様及び家族から喜ばれる施設作りを目指す。お花遊び等、趣味の時間を増やす</p> | <p>1 施設作り</p> <p>今年度は、趣味の時間帯として、お花遊びのほか、ハンドベル演奏を追加した。ご利用者様は13人参加して頂いている。</p> |
| <p>2 職員の処遇</p> <p>事業に邁進できるように職員教育に努め、職員の資質により、提供サービスに格差が生じないように、各種マニュアルを随時、見直す。</p> | <p>2 職員の処遇</p> <p>職員教育に関しては、職員配置（適材適所）を考えて、各主任及び副主任に職員研修などを推進させた。</p> <p>新人研修は、ユニットリーダーが担当し、それぞれの、ユニットの特徴にあったケアを推進した。</p> |
| <p>3 協力医療機関との連携</p> <p>湘南泉病院との連携により、一体的な効率運営、医療面充実、保健・医療・福祉の統合を目指す。</p> | <p>3 協力病院との連携</p> <p>湘南泉病院の他、協力病院として上白根病院やほうゆう病院と連携をとりながら、施設入居者の状態に応じて対応した。</p> |
| <p>4 複合的サービスの提供</p> <p>地域包括支援サービスセンターとの連携に努め、複合的なサービスが効果的に提供できるように運営する。</p> | <p>4 複合的サービスの提供</p> <p>地域支援センターとの連携を重視し、担当者会議には、積極的に参加するように努めた。</p> |
| <p>5 個人情報保護</p> <p>個人情報基本法に鑑み、ご利用者様の個人情報の保護を徹底して押し進める。</p> | <p>5 個人情報保護</p> <p>個人情報管理に関しては、個人ファイル管理の重要性を、各職員に周知徹底した。</p> |
| <p>6 リスクマネジメント</p> <p>ヒヤリハット報告の集計分析結果をもとに、リスクの軽減とヒューマンエラー防止を更に徹底する。</p> | <p>6 リスクマネジメント</p> <p>パソコンで処理されている結果をもとに、時間帯、場所などを特定し今後の課題とした。事故防止委員会のメンバーの他、自主的に職員の参加を</p> |

